

地域人材育成のための取り組み「島スクエア」

岡野内 悟*¹

"Shima-square" Efforts to Develop Local Human Resources

Satoru OKANOUCI

Abstract

Development of local human resources is one of the important issues. We introduce that we have provided courses that are useful for starting a business, nurturing the next generation, and supporting local activities for 12 years. The essence of "shima-square" is the idea that local human resources will grow while motivated people gather and interact, and maintaining such a place will be the foundation for supporting the region.

Key words: shima-square, development of local human resources, entrepreneurship, place for regional exchange

1 はじめに

少子高齢化が進み人口減少が止まらない地域にとって、地域人材の育成は最重要課題の一つであり、各地で様々な取り組みが成されている。「島スクエア」は、2008年（平成20年）の文部科学省科学技術振興調整費事業、地域再生人材創出拠点の形成「山海空コラボレーションみかん島再生クルー」と題して大島商船高等専門学校が山口県周防大島町を地域拠点とした地域再生の取り組みとして採択された5年間のプロジェクトの愛称である。起業家を養成することで地域再生につなげようとする取り組みとしてスタートし¹⁾⁵⁾、5年のプロジェクト終了後も、柳井広域自治体1市4町の支援を得て継続し⁶⁾⁷⁾、2020年（令和2年）で13年目（継続8年目）を迎えている。この事業は、地域人材の育成を中心として地域課題に取り組んだ事例の一つとして位置づけることができる。本論文は2008年（平成20年）から12年間取り組んできた取り組みについて紹介し、地域人材育成の一手法について示唆する。

2 島スクエアの方針と活動

起業家養成が地域再生へ結びつく理由として、次のように考えた。

・UターンやIターン者が起業して定住することで、

人口増につながる。

- ・農業や漁業など自営業の収入が少しでもプラスすることで、気持ちや生活が少しでも豊かになる。
- ・起業によって自立心や意欲が高まることで、地域に活力が生まれる。
- ・それぞれの得意な能力を生かして起業することでサービスが多様化し、住民の生活の質が向上する。
- ・起業して責任を持って自活することで、補助金など他者依存からの脱却につながる。

これらの考えを出発点に、島スクエアの活動を続けた。主な活動の経過を表1に示す。

表1 島スクエア活動の経過

2008年(平成20年)	プロジェクト採択。「起業家養成の基礎講座」開始
2009年(平成21年)	「商品開発講座」、「体験型観光ビジネス講座」、「Web動画クリエイター養成講座」を開始
2010年(平成22年)	特別講座・集中講座を追加
2011年(平成23年)	次世代育成の取組を開始。「安下庄海の市」へ協力
2012年(平成24年)	大島商船高等専門学校「島スクエア起業教育研究センター」開設 「ふれあい市場」開始
5年プロジェクト終了	A評価。文部科学省からの補助金による事業は終了
2013年(平成25年) 同年10月	柳井市、周防大島町、上関町、田布施町、平生町の柳井広域自治体、1市4町のご支援を得て継続 修了生を中心にNPO法人「島スクエアプラス」設立
2020年(令和2年)	その後、島スクエアプラスと活動を続けて島スクエア13年目（継続して8年目）となる

* 電子機械工学科

2008年にプロジェクトが採択され活動が始まり、起業のための講座を3年かけて順に開講した。4年目に地元漁協の方と島スクエア修了生が中心となって「安下庄海の市」が始まり、起業に向けての実践の場としての活用も始まった。また、学生や生徒が地域を知り地元の方と交流することで、地域を支える人材に結びつくことを期待して、次世代育成の取り組みを始めた。5年目となるプロジェクト最終年度には島スクエア事業の継続を見据え、廃校となった校舎の一角を借りて、「島スクエア起業教育研究センター」を開設した。このセンターを地域との交流や販売実習の拠点とし、「ふれあい市場」も開催するようになった。5年間のプロジェクト終了後は、柳井広域自治体からのご支援と、島スクエア講座の修了生やプロジェクトに関わった方々のご尽力により、修了生や地域活動を支援するためのNPO法人「島スクエアプラス」が設立され、活動を一緒に続け、今日に至っている。島スクエア継続に際し、単に起業家を養成するだけでなく地域人材育成と幅広く捉え、島スクエアの方針を“起業や新たな事業展開を目指す意欲的な人が集まり、それぞれの得意とする能力を生かして結びつき、地域再生へつなげようとする取り組み”と位置づけて活動している。島スクエアで対象とする起業や事業は、社会に役立ち自立できるものであれば、規模の小さなもの、地域づくりや文化的なものも含め、幅広く捉えている。島スクエアの活動も「講座の実施」、「次世代の育成」、「地域活動や修了生のサポート」の3つに集約した。

島スクエアの運営は、大島商船高専、周防大島町、島スクエアプラス、周防大島町商工会からの委員で意見交換して進め、業務の一部をNPO法人島スクエアプラスへ委託するなどして実施している。活動拠点は島スクエア起業教育研究センターで、活動予算は、本校と周防大島町をはじめとする柳井広域自治体からの補助金で賄われている。

3. 活動内容

活動内容の例として、2019年（令和元年）の島スクエアの活動日程を表2に示す。

表2の左から2番目の列「全体」の日程は運営会議と「島スクエアフォーラム」である。中央の列「講座」は島スクエア講座の日程で、右の列「修了生支援ほか」は毎月第4日曜の「安下庄海の市」、奇数月第2日曜の「ふれあい市場」、偶数月第2日曜の「ふれあいマルシェ」などである。「ふれあいマルシェ」は島スクエア修了生を中心に、起業実践の場として地域の方と自立運営を始めている。

表2 2019年の島スクエア日程

日程	全体	講座	修了生支援ほか
4月 4月11日(木) 4月14日(日) 4月28日(日)	1島スクエア運営会議	○5月広報準備。チラシ	18ふれあいマルシェ 90安下庄海の市
5月 5月9日(木) 5月12日(日) 5月26日(日)	2島スクエア運営会議	○受講生募集。6月広報準備	40ふれあい市場 91安下庄海の市
6月 6月6日(木) 6月8日(土) 6月9日(日) 6月22日(土) 6月23日(日) 6月29日(土)	3島スクエア運営会議	○講座開始。7月広報準備 ①起業入門講座10:00-16:00 ②起業入門講座10:00-16:00	NPO島スクエアプラス総会 19ふれあいマルシェ 92安下庄海の市
7月 7月10日(水) 7月11日(木) 7月13日(土) 7月14日(日) 7月18日(水) 7月28日(日) 7月30日(火)	4島スクエア運営会議	地域づくり講座1330-1600(平生) 地域づくり講座1330-1530(柳井) 地域づくり講座1330-1530(上関) 実践講座1330-1600(大島)	41ふれあい市場 93安下庄海の市
8月 8月7日(水) 8月8日(木) 8月11日(日) 8月25日(土) 8月31日(土)	5島スクエア運営会議	○フォーラム構想 実践講座1330-1600(田布施) 親子発明工作教室 複式簿記の基礎13:30-16:30	20ふれあいマルシェ 94安下庄海の市
9月 9月4日(木) 9月5日(木) 9月8日(日) 9月14日(土) 9月22日(日)	6島スクエア運営会議	○フォーラム計画 食の衛生講座14:00-16:00 名刺をつくらう講座13:30-16:30	○夢さくひろば祭り計画 42ふれあい市場 台風中止95安下庄海の市
10月 10月10日(木) 10月12日(土) 10月13日(日) 10月13日(日) 10月27日(日)	7島スクエア運営会議	○フォーラム案内	(1)YFL(山大)EP基礎 (2)YFL(大島)EP基礎 21ふれあいマルシェ 96安下庄海の市
11月 11月2日(土) 11月7日(木) 11月9日(土) 11月10日(日) 11月17日(日) 11月25日(日)	8島スクエア運営会議	○フォーラム準備 商船祭イベントのづくり 次世代講座 13:30-17:00 次世代講座 8:30-17:00	大島夢さくひろば祭り 43ふれあい市場(7周年) (3)YFL発表EP基礎 97安下庄海の市(8周年)
12月 12月5日(木) 12月8日(日) 12月13日(金) 12月14日(土) 12月22日(日)	9島スクエア運営会議 島スクエアフォーラム準備 島スクエアフォーラム		22ふれあいマルシェ 98安下庄海の市
1月 1月6日(日) 1月9日(木) 1月12日(日) 1月26日(日)	10島スクエア運営会議		44ふれあい市場 99安下庄海の市
2月 2月6日(木) 2月9日(日) 2月23日(日)	11島スクエア運営会議		23ふれあいマルシェ 100安下庄海の市
3月 3月8日(日) 3月22日(日)	運営会議はメールにて	○15日周防大島町4月広報締め	45ふれあい市場 101安下庄海の市

3. 1 講座の実施

講座の実施例として、2019年（令和元年）の一般向け島スクエア講座と受講人数を表3に示す。

実施する講座は、「起業や新たな事業展開に役立つもの」という広い観点で計画し、島スクエアプラスに委託するなどして実施している。

表3 2019年の島スクエア講座と受講人数

時期	講座名	回数	講座時間(時間)	受講人数(人)
6月22日	島スクエア起業家育成講座	2	各5	7
6月29日	入門講座「むつかしくない起業のノウハウ」	2	各5	9
7月10日	地域づくり講座「島のみみつきち」の取り組み	1	2.5	65
7月13日	地域づくり講座「地域資源の見つけ方、伝え方」	1	2	8
7月17日	地域づくり講座「魚で、まちづくり」	1	2	21
7月30日	実践講座「放棄地を豊産してハチミツづくり」	1	2.5	21
8月7日	実践講座「発酵で食品を生かす」	1	2.5	47
8月31日	関連講座「起業に役立つ複式簿記の基礎を知ろう」	1	3	3
9月4日	関連講座「食の衛生」	1	2	6
9月14日	関連講座「ビジネスに役立つ旅館の名刺を作ろう」	1	3	6
11月2日	ものづくり講座「ものづくり技術紹介」	-	-	商船祭にて
随時	ものづくり講座「ものづくり実習」	-	随時	-
	合計	10		194

島スクエア講座の場所は、島スクエア起業教育研究センター2階の講義室を利用しているが、地域づくり講座などは地域活動や起業に広く感心を持ってもらうため、柳井広域自治体から会場を借りて、出前講座の形で行っている。また、起業して活躍されている島スクエア修了生や島スクエアに関係する方に講師をお願いするなど、受講生が興味や関心を持ち、今後の交流につながるように配慮している。

これまで12年間の島スクエア講座の実施日数と受講人数を図1に示す。国からの補助金で実施した2008年から2012年までは講座日数を徐々に増やし、年間80日、受講生も50名近くになった。特に2012年は、島スクエア5年目で事業が終了するのではという駆け込み受講で大幅に増えた。自治体からの補助金による事業継続後は、予算の減少に応じて講座日数も減少しているが、一方で受講生は増加している。要因として、プロジェクト5年間の講座は専門知識を身につけるため10回以上のコースが多く、毎回受講できる人は限られていた。継続後は必要な講座を1回ずつ受講できる形にし、気軽に受講できるようになったことが大きいと考えられる。他にも、講座案内を柳井広域自治体1市4町の広報誌へ掲載したり、2017年以降は各自自治体への出前講座を実施したり、修了生に講師をお願いして馴染み深いものにするなどの成果の表れと感じている。

島スクエアの実施当初は、“地域的に受講生を毎年確保するのが難しいのではないか”という意見もあった。しかし、継続して講座を実施し、講座内容も年により変化することでこれまで受講できなかった部分を学び直すこともでき、結果的に長期的な人材育成につながっている。なお、講座の料金は、補助金を頂いて運営していること、受講生が貴重な時間を使って来られることに配慮し、実習にかかる実費のみいただき、受講料は無料にしている。

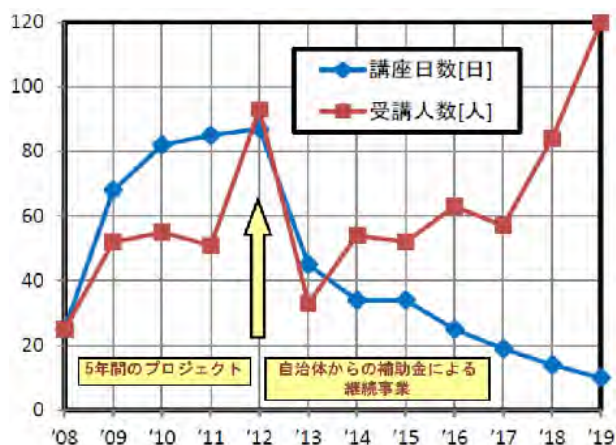


図1 島スクエア講座の実施日数と受講人数

3. 2 次世代の育成

少子化の進む地域にとって、教育の質の確保や「考える力」、「創造する力」を身に付けさせることは重要なことである。「次世代の育成」の活動例として、令和元年の次世代育成講座と受講人数を表4に示す。

小学生向けには親子発明工作教室、高校や高専生向けには次世代育成講座、小学生から幅広く参加できるロボットの展示・操作などがある。また、「ふれあい市場」へ近隣の小中学校の生徒がボランティアとして手伝ったり、11月のふれあい市場「大島夢さくひろば祭り」へ柳井広域自治体の高校生が出店・展示を行ったり、地域との交流や体験実習の場となっている。図2は次世代育成講座の様子である。

表4 2019年の次世代育成講座と受講人数

時期	講座名	回数(回)	全時間数(時間)	受講人数(人)
8月8日	親子発明工作教室	2	4	14(7組)
11月9日と10日	次世代育成講座	2	10	6
ふれあい市場にて	ロボット展示・操作 ~レゴバトル~	6	24	約百人



図2 次世代育成講座

3. 3 地域活動や修了生のサポート

地域活動や修了生のサポートは、NPO法人島スクエアプラスと一緒にやっている。主な活動内容は次のとおりである。

- ・島スクエア起業教育研究センターに相談員を置き、修了生や地域の方の相談に応じている。
- ・起業に役立つ情報など「島スクエア」ニュースレターとして電子メールでの配信を行っている。
- ・島スクエアフォーラムを行い、地域を考えている方が集まり、交流する場を設けている。
- ・「ふれあい市場」を奇数月の第2日曜、11月は「大島夢さくひろば祭り」の形で開催している。
- ・修了生の行うワークショップや出店、地域イベントに協力するなど、必要によって行っている。

これまで7年間行っている「ふれあい市場」、「安下庄海の市」の来場者数の変化を図3に示す。

来場者の7年間の平均では、ふれあい市場は約340人、安下庄海の市は約680人で、年々減少している。原因として、広告チラシなどの広報が減ったこと、地域のイベントが年々増えたことが主な要因と思われる。なお、来場者数は天候や近隣で開催される行事の有無に大きく左右される。

「ふれあい市場」は、規模は小さいが地域の賑わいの場、子供からお年寄りまで広い世代が交流できる場として、生かして行ければ良いと考える。

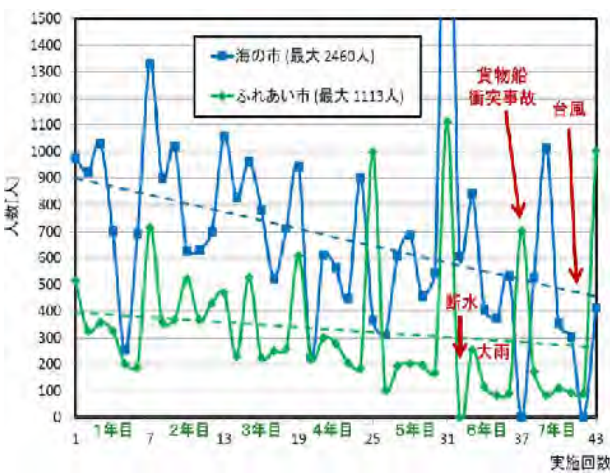


図3 「ふれあい市場」「安下庄海の市」来場者数

4. 島スクエアでの人材育成

島スクエアでの3つの活動内容「講座の実施」、「次世代の育成」、「地域活動や修了生のサポート」は、次のように地域人材の育成につながっている。

(1) 講座の実施

- ・起業に役立つ講座の受講生募集により、意欲のある人が集まる。
- ・席を並べて過ごすことで、知り合いができる。
- ・受講することで知識や技術が得られる。

(2) 次世代の育成

- ・若い人が地域を考える人と出会う場となる。
- ・先入観なしに地域を知り、かかわりを持つ。

(3) 地域の活動や修了生のサポート

- ・起業やこれからは役立つ情報が得られる。
- ・交流の場で知り合い、相談相手や仲間ができる。
- ・「ふれあい市場」など一緒に作業して力を合わせた汗を流したりすることで、親近感が増す。

これらの活動をとおして、想いを持った人が集まり、それぞれの得意とすることを生かし、地域を良くする活動に結びついていくことを期待している。

5. おわりに

2013年(平成25年)以降、島スクエア講座の受講生で実際に起業された方は20名を超え、中にはテレビ番組等で取り上げられたお店もある。修了生の経験や体験のお話は、成功も失敗も含め貴重なもので、今後の講座や交流の場をとおして、みなさんに生かしていただけたら良いと考える。

2020年3月以降、新型コロナウイルス感染拡大防止のため「ふれあい市場」など不特定多数の人が集まる行事は中止している。一方、講座については消毒や体温測定、記名を行い、いわゆる3密を避けるなど感染防止対策をして8月から開催し、予想以上に数多くの方に受講いただいている。

現在の形での島スクエアは今年度(2020年度)限りとなる。「島スクエア」の本質は、“意欲のある人が集まり交流する中で地域人材が育つ。このような場を持ち続けることが地域を支えていく土台になる”という考え方である。これらの経験を、これからの地域活動に生かしていければ良いと考えている。

謝辞

島スクエアの活動は地域の人を大切にする意欲的な方々、NPO法人島スクエアプラスの皆様を支えられている。敬意を表するとともに、心より感謝致します。また、本活動は周防大島町、柳井市、田布施町、平生町、上関町、周防大島町商工会を通じて山口県商工労働部のご支援、ご協力を得て実施しています。記して感謝の意を表します。

参考文献

- 1)大島商船高等専門学校, 山海空コラボレーションみかん島再生クルー2008~2009年報, (2010)
- 2)大島商船高等専門学校, 山海空コラボレーションみかん島再生クルー2010年報, (2011)
- 3)大島商船高等専門学校, 山海空コラボレーションみかん島再生クルー2011年報, (2012)
- 4)大島商船高等専門学校, 山海空コラボレーションみかん島再生クルー2012年報, (2013)
- 5)岡野内悟, 商品開発起業コース最終年の方針と島スクエア起業教育研究センターの設立, 大島商船高等専門学校紀要第45号, pp.1-4,(2012)
- 6)岡野内悟, 岡宅泰邦, 6年目の「島スクエア」の方針と活動報告, 大島商船高等専門学校紀要第47号, pp.51-54,(2014)
- 7)岡野内悟, 9年目の「島スクエア」の方針と活動報告, 大島商船高等専門学校紀要第49号, pp.17-20,(2016)